

35 (テーマ設定部門) テーマ: 『“住民の底力”による地域の防犯力の再生』

事業名 出東地域安心安全ステーション

実施主体 出東地域安心安全ステーション

県担当課 警察本部生活安全企画課

事業の成果

事業の目的 [地域安全]

- 地域安全マップ作成、子ども駆け込み場所の選定及び、目印であるのぼり旗の設置、ソーラーセンサーライトの設置等を通じて、地域と子どもが参画する地域コミュニティを構築する事業を展開することにより地域住民が安全安心して生活が出来る地域をつくること。

事業の内容

- 地域が子どもたちを守らなければならないという自覚を深めてもらうために、地域の体制づくりを行った。
- 地域安全マップ作成の際、児童に「具体的な危険箇所とは」を説明し、襲いやすい場所がどこか学ばせ、子どもたち自身が自分の地区を調査探索して歩いたうえでマップを作成して、さらにマップ学習会、マップ発表会をとおして子どもたちや地域住民の意識改革を行った。
- 地区住民が、児童が作成したマップを基に危険箇所を把握し、SOS 子どもを守る家の選定を行い、ソーラーセンサーライトを取り付けた。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 安全マップ作成にあたり、小学校、ボランティア団体、一般の地区住民が協働して、子ども達を感じる危険箇所を一緒に歩いていただき、今後の防犯活動に生かされるような図面ができ、地区全世帯に配布した。
- 地区住民の意識が高まり、連携が深まったことでコミュニティの再生ができた。

反省点・改善点

- 事業決定が10月にずれこみ、事業を展開していく上での時間があまりにも少ない。今後はこうしたことがないように年度当初に決定していただきたいと思う。
- マップを作成するに当たり、依然として旧態のスタイルにこだわりを持つ人が多いのも事実、特に教育関係者の理解不足が感じられた。行政による情報発信をお願いしたい。

協働の効果

県との協働内容 [協働して実施した]

- 防犯情報の提供
- ソーラーセンサーライト設置等のアドバイスを受けた。

県との協働効果 [十分効果があった]

- 県との協働事業となると地域の人々の理解が違う。財政支援というのも大変役立ったと思う。
- 町の方での補助を求めたこともあるが、危機意識の無さ、防犯に対する理解不足、担当課のあいまいさが原因している。
- 今回の県との協働事業は有意義な事業だったと思っている。

県への要望事項

- 学校・教育委員会に地域コミュニティの構築がいかに大事かが理解できない状況下での説明が、いかに大変であったかを理解して欲しい。
- 地域の行政の理解が不可欠である。お金の支援より気持ちの支援、単にボランティアがやっているということだけでなく、積極的に地域の行政が関与すればもっとよりよく地域コミュニティが構築され効率的に地域の防犯意識の高揚が図れると思う。
- 防犯に対する条例を積極的に市町村に働きかけてもらいたい。

反省点・改善点

- 地元での広報活動を積極的に行えばよかった。

市町村との協働 [協働しなかった]

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 地域安全マップは、小学校の廊下に張り出され、児童達がその都度見て活用している。
- 地域安全意識が向上して、自主的に防犯パトロールをしてくれる人がでてきた。
- 他地区(町外)より、地域安全マップ作成についての問い合わせがあり情報提供している。

事業の継続状況 [助成を受けて継続実施している]

- 昨年度実施した危険個所の再調査を行う。親子で地域を再調査し、マップの修正作業を実施する。
- のぼり旗の補修を順次展開する。
- 地区防犯協会から助成を受けたが、県のほうでも事業が終わってすべて終わりということではなく、継続してある程度の助成はお願いしたい。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 地区のコミュニティの構築により、犯罪者に癒し効果があるとされる青色防犯灯の設置を展開したいと思っている。
- 市町村にも担当部署を設けてもらい、意識を持ってもらいたい。

